

取組事例の名称	港内啓開業務
<p>3. 工事等の実施に当たっての課題や留意した事項、苦労した事柄・教訓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事前の探査記録により、撤去対象物への作業船の誘導は迅速に実施できたが、潮汐や風浪で移動する木材等の浮遊物の回収に苦労した（写真-1参照）。 ・ 車両の回収については、搭乗者の有無を確認しながらの作業であったため時間を要した。 	
<p>4. 実施後の成果に対する発注者や地元住民等の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 港湾機能の回復は水深の確保や浮遊物の撤去が前提であり、早期に啓開業務に着手出来たことは評価された。 	
<p>5. 採用した技術に対する改善点、望まれる技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 資機材の調達難しい緊急時には特殊機械よりも調達期間の短い、汎用機の採用が有効であった。 ・ 本現場の事例ではないが、大深度の海域に沈んだ養殖施設の回収が捗らずお困りの自治体、漁協があった。潮流等の影響を受ける大深度海域から速やかで正確に目的物を撤去する技術が望まれる。 	
<p>6. 今回の取組を通じ、将来の災害対応の為に準備すべきと感じた事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 緊急時の連絡システムの確保が特に重要であった。これについては、国・県・市町村と連携した定期的な訓練が必要と考える。 	
NETIS登録	